

■長沢鼎 維新期にアメリカへ渡って“カリフォルニアのブドウ王”に。レーガン大統領の訪日演説で名が知られた。

ながさわかなえ

万次郎帰国・1852＝ 鹿兒島城下で、薩摩藩天文方という学者の家に生まれる。本名は磯永彦助。

ペリー来航・1853＝ 1歳：

桜田門外変・1860＝ 8歳：

遣欧使節・1861＝ 9歳：

禁門の変・1864＝12歳： 薩摩藩が設立したエリート養成校(開成所)に1期生として入学。

薩摩藩士密航1865＝13歳： 1トマス・グラバーの手引きで、薩摩藩が派遣した留学生の最年少者に抜擢され、ともにイギリスへ密航して、グラバー紹介のオリファント議員に会い、年少ゆえ一人スコットランド・アバディーン家のグラバー家に送られ、その中学校に入学。まもなく成績優秀者に掲載されるほど勉学に励むうち、

薩長同盟・1866＝14歳： 2アメリカのカリスマ教祖ハリスが設立した(新生兄弟社)に傾倒するオリファントの手引きで、
大政奉還・1867＝15歳： 3訪英したハリスに出会い、森有札らと(新生兄弟社)で労働しながら勉学する道を選択して渡米、ワインの醸造もするエリー湖畔のコロニーで牛の世話に従事、辛い日々を過ごしながらも、

明治維新・1868＝16歳： 4離脱して帰国する者が相次ぐも、唯一人コロニーに留まり、以後も、密航の変名長沢鼎を使い通す。

初の日刊新聞1870＝18歳： 明治新政府の正式な留学生として認められ、コーネル大学に入学するも、すぐに退学、

廃藩置県・1871＝19歳： ヨーロッパ旅行に連れられるなど、ハリスから後継者と目され、アメリカ永住を決意するようになり、

学問のすすめ1872＝20歳： 岩倉使節団がアメリカ東海岸に到着した際、留学生として上陸した山川捨松とのロマンスがあったようだが、結局生涯を独身で暮らす。

明治6年政変 1873＝21歳：

5内紛を契機に、ハリスがカリフォルニアへ移住を決意すると、

初の民間工場1875＝23歳： 6もう一人の日本人荒井常之進ほか僅かなメンバーと従って、サンフランシスコに入り、ハリスが購入したサンタローザの土地“ファウンテングローブ”で、乳牛を飼育し、町に出て牛乳を売ることから着手。

琉球処分・1879＝27歳： 7*ブドウの植付けに乗出し、ワイナリー経営者の道を歩み出す。

明治14年政変1881＝29歳：

新体詩抄・1882＝30歳： 8ワイン醸造所が完成。

9ワイン造りが次第に成功し、

当初は、中国やイタリアからの移民を使っていたが、

帝国大学始・1886＝34歳： 10大手ワイナリーの地位を築くとともに、一攫千金を夢見て渡米してくる日本人の受け入れも始まり、

初の対等条約1888＝36歳： この年、後に“ポテト=キング”の名を馳せることになる牛島謹爾が渡米、

帝国憲法発布1889＝37歳：

大本教・1892＝40歳： 11年老いたハリスがニューヨークに戻ったことで、完全に自立、

郡司千島探検1893＝41歳： 12*カリフォルニア州のワインコンテストで2位となり、ロサンゼルス・ニューヨーク・ロンドンに支店、

日清戦争始・1894＝42歳：

日清戦争終・1895＝43歳： この年には、ヨーロッパから種馬を輸入したり、カリフォルニアで養蚕するなど事業拡大を企図、失敗に終わった榎本武揚のメキシコへの日本人植民計画に直接関わった近縁の橋口文蔵の思いを実現させようと、

白馬会・1896＝44歳： 13甥の伊地知共喜が参加、やがて、右腕となり、生涯を捧げることになる。

八幡製鉄始・1897＝45歳： 14投資家を募るべく、32年ぶりに、日本へ里帰りし、(鹿兒島新聞)に連日記事が掲載される。

数年前のこともあって、応じる者は無かった。

この頃、荒井は突然日本に帰国、“菓鴨聖人”と呼ばれるほど敬虔な信仰生活を送り、足尾鉍毒事件に奔走していた田中正造にも影響を及ぼす。

教科書疑獄・1902＝50歳： 15伊地知の弟佐々木英吉も加わる。

日露戦争終・1905＝53歳： 16日本の勝利に、ハリスと連名で奉祝の声明を発表。

満鉄発足・1906＝54歳： 17*ハリスが死去。サンフランシスコを襲った大地震を契機に、排日運動が表面化し、以後激化して行く。

この頃、島津家30代当主忠重が士官候補生として乗組んだ日本海軍練習艦がサンフランシスコに寄港すると、馬車を仕立ててサンタローザに招き、土下座して迎えたという。

伊藤博文暗殺1909＝57歳： 18加州日本人中央農会主催の老農懇親会に、ブドウ栽培と醸造法について現在残る唯一の文を寄せ、日本人移民に指南し、

明治天皇没・1912＝60歳：

大正政変・1913＝61歳： 19外国土地所有禁止法が可決されるも、

21ヶ条要求・1915＝63歳： 20サンフランシスコ万博で審査員を務めるなど、地元の名士の地位を保ち、

後藤新平や新渡戸稲造ら日本の有力者が頻繁に訪れるが、

大暴落・1920＝68歳： 21禁酒法が施行されて事業縮小に追い込まれると、ますます寡黙になり、

原敬首相暗殺1921＝69歳：

関東大震災・1923＝71歳： 22日本へ最後の里帰り。日本人がカリフォルニアで土地を所有することが不可能になるなか、例外扱いされて、日系人からも敬遠されたが、孤高を貫き、

護憲三派圧勝1924＝72歳： 23排日移民法制定。

満州事変・1931＝79歳：

国際連盟脱退1933＝81歳：

帝人疑獄事件1934＝82歳： 24*禁酒法が廃止された直後、没した。地元紙は最大級の賛辞をもって、その死を伝えた。

産経「日本人の足跡2」、